



五月祭

引き続き、五月宮へ移動。五月宮も御社殿はなく、大きな常緑樹を依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、午前十一時、浜宮祭参加者に加え、江口区長、福岡県立少年自然の家玄海の家関係者ら地元の方々が多数参



浜宮祭

風薫る五月五日(こどもの日)、恒例の五月・浜宮祭が宗像市江口の五月宮と同市神湊の浜宮でそれぞれ齋行された。
当日、高向宮司以下神職四名が神湊に鎮座する浜宮へ出向。浜宮には御社殿はなく石祠で、その御神前に海川山野の味物に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「苜蓿酒」など、端午の節句を象徴する神饌をお供えし、午前十時三十分、浜宮祭を齋行。当大社責任役員、氏子会長、地元総代、神湊地区の各区長をはじめ地元の方々が多数参列された。

五月・浜宮祭齋行



宗像

6月祭事暦

1・15日 月次祭

午前10時～

高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社祭
月命日祭(1日)
巡 拜(15日)

午前11時～

総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)



余滴

宗像大社の拝殿には「天孫を助け奉り、天孫に祭られよ」と書かれた神勅が掲げられている。これは天照大神が宗像大神にお告げにな

たお言葉で「歴代の天皇の祀り事を助けると共に、歴代の天皇より丁重に祀られなさい」との内容である。これを私たちの日常生活に置き換えると「互譲互助」の精神が大事であることが記されている▼この度の東日本大震災後、この互譲互助という言葉が度々聞かれる。近年の日本は個人主義志向が強くなり、本来持っているこの互譲互助の精神が希薄になっていった部分を感じられていたが、この度の震災により持ち備えているこの心が蘇ったのだと思う▼神社の祭りの中心には稲作がある。稲作は周囲の皆さんとの協力が無ければ出来ないものであり、そこから互譲互助という精神が作られたのである。資源がないこの国が戦後に大国になったのも皆で助け合いながら努力してきたからこそであり、またそれが出来るのが日本人であると思う▼これから夏に向けて電力不足が心配されており、これは国民全体で痛みを分かち合わなければならぬが、日本人は本質的にこれを共有出来る心があると思う。この精神を国民全体が意識するならば、必ずこの国難を乗り越えられるであろうし、日本人の精神性が今後は世界の模範となるかもしれない。(葦)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品



装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



五月祭での直会

列される中、五月祭が斎行された。
 祭典終了後、五月寮で直会が執り行われた。奉仕者並参列者一同、檜の若葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯、がめ煮・膾・粽・ガメの葉饅頭を古式ゆかしく栗箸でいただきながら、神人和楽の一時を過ごした。
 稲の成長を予祝する神事でもあるこの五月・浜宮祭が終ると、神郡宗像では田植えの準備が始まり、一面の水田に早苗が影を浮べながら夏へと木々も緑を深めていく。



五月宮

第49回 若布献上の儀

四月二十六日、高向宮司と随行神職が宮中へ参内、賢所、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、三笠宮家へ玄海灘産の若布を献上申し上げた。
 若布献上は、昭和三十八年に始まり、今年で49回目を迎えた。例年、献上若布を採取する海洋神事奉賛会(宗像・鐘崎漁協で構成)の中から会員数名が献上に同行している

が、東日本大震災発生により自粛したいとの申し出があり、今年は大社職員のみでの献上となった。
 当大社も自粛することを検討したが、献上の是非については、宮内庁の意向に沿う事とした。後日、宮内庁より宮中においても地震による被害が有り、近々での献上は難しいが恒例の宗像大社による献上をお待ちしているとの回答があった為、献上申し上げる事に決定した。

を」という奉賛会会員の気持ちも伝わってくる磯の香りも芳しい濃緑の見事なものであった。
 二十五日、本殿において献上奉告祭が斎行され、杉箱に納められた若布と共に宮司並びに随行神職は福岡空港より上京した。例年、福岡空港で出発前にセレモニーを催しているが、これについては自粛することとした。

二十六日、午前十時、宮司並びに随行神職は坂下門より宮中へ参内、掌典長手塚英臣氏に若布献上の旨を言上、同掌典長を通じて賢所に献上申し上げた。
 続いて、侍従職地引和宏氏を通じて天皇・皇后両陛下へ献上申し上げた。次いで、宮内庁内にて宮司が記帳を行ない、宮中三殿参拝の栄に俗し宮中での献上の儀を滞りなく終えた。宮中では、地震による影響で建物や外壁など所々損傷が見られ、震災の状況を目の当りにし心苦しい気持ちとなる。宮中を辞し一行は赤坂

御用地へと向かい、東宮侍従黒田龍和氏を通じて皇太子・同妃両殿下へ献上申し上げ、更に三笠宮付宮務官坂倉幸治氏を通じて三笠宮家へも献上申し上げた。
 ここに宗像大社並びに海洋神事奉賛会の春の重儀「若布献上の儀」を無事終えた。
 尚、本年の若布献上に際し、格別の御支援を賜りました出光興産(株)、全日本空輸(株)をはじめ、関係各位には紙面を以ちまして厚く御礼申し上げます。

今年も海上時化ること多く、また海水温度が低かった為、若布の生育が遅れ、採取解禁日である三月一日から直ぐには採取出来ず、十一日になってようやく採取を開始する事が出来た。大社に届けられた若布は、厳しい採取状況の中「献上若布だけは最上のも



献上される若布

沖津宮・中津宮 春季大祭 齋行

去る四月十六・十七日の両日、筑前大島に於いて沖津宮・中津宮の春季大祭が盛大且つ厳肅裡に齋行された。

十六日午後三時、翌日の大祭に先立ち地主祭を齋行。同五時、沖・中両宮の宵宮祭が沖津宮遙拝所と中津宮本殿に於いて執り行われた。

翌十七日、春うららかな晴天の中、午前八時半より宮崎区の厳島神社で、同九時半より大



歓声に包まれた奉納相撲



島最高点の御嶽山々頂に鎮座する摂社御嶽神社にて其々春祭が執り行われた。同九時からは島の北側に位置する沖津宮遙拝所にて、沖津宮春季大祭が齋行され、高向宮司奉仕により、遙かに沖津宮を拝し、巫女による浦安舞が奉奏された。午前十一時、氏子・崇敬者を始め、この日は天候に恵まれますと共に日曜日と重なった為、遠来の参拝者多数参列のもと、中津宮春季大祭が齋行された。

祭典は高向宮司が皇家・皇室の弥栄と大漁満

足・五穀豊穣を祈念する祝詞を奏上。次に島内の氏子を代表し、奉幣使 藤島一政氏が奉幣詞を奏上された。続いて巫女が神楽「浦安舞」を奉納し、宮司・奉幣使・参列者が各々玉串拝礼を行い、祭典は滞り無く終了した。引き続き高向宮司より、和机を中津宮に奉納された丸井定氏を始め、年間献魚・献品者に対して感謝状と記念品が贈呈された。

午後一時半より恒例の神賑行事、大島小学校生徒による「奉納子供相撲大会」が催され、境内には大きな歓声が響き渡り、和やかな雰囲気の中に今年度の沖・中両宮春季大祭も無事幕をとじた。大祭が終ると田

植えや巻網漁が始まり、島は慌しく動き出す。
尚、大祭諸準備等に御奉仕頂きました沖・中両宮奉賛会(会長 古賀理氏)、同敬神婦人部(部長 河辺恒子氏)、同翼賛会(会長 遠藤三保氏)の皆様には、心より御礼申し上げます。

宗像大社菊花会 玄海小学校に菊資材を贈呈

小雨の降る五月十日、宗像市立玄海小学校体育館にて恒例の菊資材贈呈式が行われた。

同校では毎年小学三年生から六年生の児童を対象に情操教育の一環として菊作り栽培に取り組んでおり、今年で十二年目を迎える。この菊作りには、ボランティア団体「匠の会(会長 小並範義)」も指導にあたり、PTA・教諭一丸となって取り組んでいる。この趣旨に当大社・宗像大社菊花会も賛同し例年菊作りを始めるこ



当社神職より資材を受け取る児童代表



氏子奉幣氏・藤島一政氏

の時期に、菊鉢や肥料などを寄贈している。当日、当社神職・巫女より児童へ手渡し、「毎年ありがとうございます。今年も皆で努力し頑張つて綺麗な菊花を咲かせます。」と力強い御礼の言葉を頂いた。秋には校内菊花展を開催すると共に、同時期に行われる

当社西日本菊花大会にも、児童達が丹精込めて作った菊が出品されている。少子化の影響もあり年々児童数も減少傾向ではあるが個性豊かな菊花がこの神郡宗像の秋を彩る日が今から楽しみである。

氏八満神社春祭

当大社が鎮座する田島地区の氏神様・氏八満神社の春祭が四月二十三日厳粛に斎行された。

当日、午前九時半、高向宮司と神職一名によって出御祭斎行、御神璽が神輿へと奉安された。田島区長始め氏子等が



当大社神門前

列を組み児童達がリコーダーの音色を響かせながら御神幸を行い、御祭神を当大社・祓舎に設営された御旅所へお連れした。御旅所での祭典終了後、大社神門前まで神輿と共に進み、宗像大神様に拝礼し再び田島区域

を御神幸、正午過ぎには田島公民館に到着し直会が行われた。午後二時神璽を本殿へとお返しする還御祭が



御神幸



氏八満神社・下

行われ、本年の春祭も恙なく終える事が出来た。

祭典後の直会で氏子さんが「昔は神輿を御本殿まで担いで登ったもんよ、今じゃー、子供も少なくなつたからなあ」と仰っていた。全国各地でお祭りや伝統行事が少子化・過疎化により中止又は縮小されているという話を耳にする。

田島地区も同様の傾向にあるが更に多くの住民に神事へ興味を持つて頂く為、御神幸の距離を長くする、隔年で御神幸ルートを変える等、住民が神事に接する事の出来る機会を増やす努力をしておられる。伝統ある祭礼は地域が一つとなる核でもあり、今後継承して頂きたい。

東日本大震災 義捐金の御報告



三月十九日より五月八日の間、本殿前に設置し御参拝の皆様にお願いでございました義捐金の総額が105万3,316円となりました。ご協力賜りました義捐金は全額、宗像市に寄託致しましたことご報告申し上げます。皆様方のご協力に心より御礼申し上げます。

宗像大社春季奉納盆栽展

第二十八回宗像大社春季奉納盆栽展が、五月二日～五日の四日間にわたり本殿西側にて開催された。

この盆栽展は、毎年春と秋(年一回)に開催され、現在の宗像市・福津市の範囲に在住した盆栽愛好家達が、「宗像大社の御神徳の発揚に努め、併せて会員相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及、盆栽技術の研鑽に励み、盆栽発展の一助とする」ことを目的に、宗像大社奉納

盆栽会(現会長 石松重敏氏)を結成し今日に至る。今回から、会員の高齢化等から津屋崎地区からの出品はなくなるも各会員の篤い思いから、多くの盆栽が展示され前回と変わらず盛大に開催された。

開催期間中は、快晴に恵まれ盆栽も日の光を受ける事により瑞々しく青々と映え、出品された黒松、五葉松、紅葉などの多くの盆栽の優美な姿に多くの参拝者が足を止め熱心に見入っていた。

神前結婚式 挙式者芳名

(平成23年4月～5月)

末長いお幸せをお祈り致します。



28日	〃 22日	〃 14日	8日	〃 4日	5月 1日	30日	29日	23日	17日	5日	4月 3日	
日並秀太郎様・大谷智愛様	武石有司様・小原久美様	酒井優作様・金子志津香様	前田修一様・高畠寿実様	山道洋人様・米倉香奈美様	古賀晃様・山之口あゆみ様	加藤立寛様・倉田雅子様	船越民雄様・小原久美様	大塚彰哉様・藤村美季様	窪藪将志様・鈴木亮子様	河野俊明様・合島織江様	初山隆良様・行武麻衣子様	
宗像市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	直方市	宗像市	北九州市	京都郡苅田町	宗像市	宗像市	宗像市	福岡市

宗像大社奨学金 受給生作文紹介

下関国際高校 1年 藤島 透 (大島中出身)

「僕の家族」

僕は、大島で暮らしています。でも今は、四カ所にバラバラになっています。

岡山県に一人、福岡市東区で二人、大島で二人、そして僕は山口県にいます。今は、そんな生活です。でも僕はこんな状況の中で、親に迷惑をかけないように頑張ってバレーをしています。家族みんなは、元気がいっぱいです。

父は、仕事で大島に帰ることはあまりありません。でも帰ってきた時は、本当にうれしかったです。仕事で疲れているのに変なことをしたり変なことを言ったりして楽しませてくれます。母は、僕とよく遊びます。ちょっかいかけてたりして遊びます。そんな時間が僕は楽しかったです。僕はこんな親の元に生まれて幸せです。

今はみんな離れていますが心は一つだと僕は思います。この宗像大島で育ったことは幸せです。いつか僕が一番楽しい時間が来る日を待ちながら、バレーボールで全国大会を目指します。そして三年後には宗像に帰ってきたいです。

宗像高校 1年 柿原 一儀 (自由ヶ丘中出身)

「私の家族」

僕の両親は二人とも聴覚障害です。周りの人達とは違って、耳で音が聞こえません。それにしゃべることも出来ません。僕は手話で親と会話をしています。最初は「面倒だ。何で自分の親は障害者なんだ。」と思っていました。しかし、日々過ごしていくにつれて、自分の親を誇りに思うようになりました。又、会話の手段である手話も好きになり、たくさん覚えました。

母は、手話のサークルである「シュワッチ」の先生です。僕は、将来教師になるという夢があります。そしてサッカー一部の顧問になり、全国優勝を目指したいと思っています。又自分の親のことや、聴覚障害者、他に色々な障害者達のことを子供たちや大人達にも伝えていきたいです。そのためにも、今自分が行っている宗像高校でしっかりと勉強し部活も両立して、夢の実現や親へ恩返し出来るようにしていきたいと思っています。

(続)

浜の寄物

256

いしいただし



GWの三日間は福津市の浜を歩いた。五月一日には、西に沈む太陽は輝きを失って沈んでいった。黄砂である。二日は屋間だったが、更にひどく、花見浜から見る沖の相島も、新宮の磯崎も全然見えず、津屋崎の大歳山は、輪郭だけではないやりにしていた。

新聞には、九州、西中国の各地で黄砂が観測されたこと



2011年5月2日黄砂(花見浜)



ツメタカイの散歩 (花見浜)



モンゴル、ゴビ砂漠の砂



タクラマカン砂漠の砂

を報道し福岡管区気象台によると、「福岡市で視界が4km前後、山口県下関市で5km、佐賀市で6km、長崎市9km」とあった。二日の夕刊では、中国、四

国、北陸、中部まで黄砂が観測され「黄砂東北にも？」と報じていた。

黄砂の中の海岸歩きは、期待した漂着物はありませんが、前日の西風で、発泡スチロールやポリ容器等は、波消ブロックの中に寄っていた。前月歩いたと同様に、小砂利の中に三片ほどの青磁

片と、土器片一個を採集した。

黄砂のため、空気が鬱陶しく感じられ、早目に家へ帰った。マスクをしておけばと悔やまれた。黄砂といえは日本では「春の風物誌」となっているし、俳句の季語にも「霾(つちふる)」である。

霾や太古の如く人ゆきき

杜門

鉢の蘭黄塵ひと目窓を占む

水原秋櫻子

黄塵に染む太陽も球根も

百合山羽公

江戸時代も黄砂はあっただろうが、俳句には詠まれていないという。結構、天災、火山爆發等もあり、灰が降ったり混同されていたとも考えられる。俳句には大正末ごろから詠まれ出したもので新季題という。

(日本大歳時記 講談社)近年は春だけでなく、九月や十二月にもある。

黄砂はゴビ砂漠やタクラマカン砂漠から吹きあげられた大量の砂塵が西風に乗って、日本の空を、黄色く覆う。

本場の中国や陸つづきの朝鮮半島は、黄砂が直接通り抜け、しかも密度も濃く、きらわれものである。韓国では黄砂を「ホワンサ」と発音するそうだが、黄砂に対する認識は「汚いもの」という。数年前であった

呼び、いくつかのランクにもわけている。「砂塵暴」「沙塵暴」と呼ばれ「暴」とつくほど、その被害は深刻で大きい。発生源とところでは砂の中に石も含むほどある。

黄砂は中国や韓国の上空を通りながら、経済発展著しいところであるため煤煙、排気ガス、炭塵等の微粒子等も混じり「空飛ぶ化学工場」となって日本にやってくる。人体に与える影響は大きいというが、まだくわしい説明はされていない。

ただ「韓国の研究者たちが注目している黄砂の健康被害のひとつがアスベストの健康被害との類似点である。黄砂は、鉱物が主体であるために体内に入っても変化することがなく長期体内にとどまることになるので、アスベストの場合と極めて状況は似ていると思われる。」(岩坂泰信・黄砂その謎を追う)

がテレビ局が韓国の黄砂を取材していたが、視界は5、6mで、先が見えないものがあった。発生源である中国は深刻で「砂塵天気」と

第五九八回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 土六

山本 静子

廊のべを飾る一対かがみ見る陶のひいなの青磁のおもわ
天瀬温泉で見た雛人形のこと。重複する言葉を整理し(天ヶ瀬の宿の廊下でかがみ見るおびなめびなの青磁のお顔)としてみた。

北九州市 八幡西区

豊田 光子

矢印は先へ先へと時を追ひ行末思ふ夕映の中
時の過ぎる速さを嘆く作者に共感。矢印が少し分りにくいので(時を追ふ矢印先へ先へ過ぎ)。

福津市 若木台

山崎 公俊

宗像の昔を知らうといふ講座なにゆるゑ女神だらうと始まる
句またがりを使った調べのゆったりとした歌。なぜ女神だらう? 読者もひきこまれる。

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

杖をつき庭に咲く花めでて行くほけに山茶花小梅桜を
花の美しい庭を楽しむ作者が見える。山茶花は晩秋の花のイメージが強いので、春の花の名に換えられたら季節感が強くなるだろう。

福岡市 南区

井田有久衣

故郷をはなれ嫁ぎし娘のもとで余世を送る友に幸あれ
心優しい作者。住み慣れた街を離れた友人への思いが素直に詠まれて好感が持てる。

うきは市 浮羽町

向 則正

教へ子の五十年振逢ひにくる竹の子土産に農夫振りよく
作者は生徒に慕われる良い先生だったのだろう。竹の子の具体が(農夫ぶりよく)を生かしている。

福津市 中央

池浦千鶴子

旅行券を求む窓口混雑し春の訪れここにも来てゐる
「旅行者が多いのは春の訪れ」と作者の発見のある歌。結句の字余りは散文的なのでもを除けては。

宗像市 日の里

大和美由紀

声をあげ泣く子笑ふ子賑やかに箱車は行く春日を浴びて
情景が生き生きと詠まれている。箱車を知らないが、幼子が何人も乗る手押し車を想像した。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

ひよどりが枝をゆらして止まりしに枝鎮まれば枝の色なり
鴨を見ている作者の静かな眼。枝が揺れている間は良く見える鴨も枝が鎮まれば紛れてしまうのだ。

宗像市 東旭ヶ丘

天野 玲子

般若心経唱へてをれば側に寄り何の歌かと曾孫言ふなり
お経も幼児には不思議な歌に聞こえるのだろう。苦笑する作者か、可愛さに溺れぬ詠みぶりが良い。

宗像市 池田

森 龍子

競市の専門用語を教えくれし亡夫よ直売所の繁盛は知らず
直売所の繁盛ぶりを見せられない作者の嘆きの深さが、上の句の具体で鮮明に見える。

宗像市 田久

巻 桔梗

悪友はどちやうにおほき尾と鱧をつけて笑はず、シーラカンスだほら
なんとも楽しい歌。友人の台詞が良い。どうやって泥鱧に尾鱧を付けたのだろう、見たいものだ。

福津市 若木台

野間 精一

宮司浜より今朝掘りしといひ下さりぬ潮のしたたる浅蜷をあまた
浅蜷の描写、四句の潮のしたたるが新鮮さと潮の匂いまで描き出し、地名の宮司浜も効いている。

福岡市 南区

加野シノブ

見事なり育てられたる白藤の花のトンネルくぐり行きたし
白藤の花のトンネルの前で感嘆する作者。初句切れだが、(見事にも仕立てられたる)と続けてはいかがが。

遺者詠

花のち長く見ざりし梅の木に気付けば青実るいと生る
不用品回収業者のポスターにさりげなくあり「遺品の整理」

第五七三回

俳句作品集

宗像市 武丸

白土 凌一

つばめとぶ梅雨も近しや雲流る
新緑を眺めて洗う吾心

宗像市 日の里

花田いつ枝

潜り行く桜さくらのダム湖畔

編集後記

今回の大震災において 対処能力、派遣人員の規模等で自衛隊の存在が際立っていたのを流れてくる映像から目にし、その姿に頼もしさを感じた方も多いと思います▼翻って、自衛隊は創設以来、国の根幹を担う組織でありながら確固たる地位を築くことが出来ずに今日に至りました。戦後、軍事Ⅱ悪というレッテルに惑わされ、国防について議論する事を避けてきた事が要因であることは否めません▼更には、一部の心ない人間達、ある政治家は自衛隊を「暴力装置」、ある作家は、防衛大生を「同世代の恥辱」とまで言い切りました。何故、命を懸け国家・国民を守る者に対し、このような言葉を発する事が出来るか理解に苦しみます▼世界中でテロが頻発し、我国周辺にも現実として脅威が存在します。そろそろ国防・自衛隊について真剣に議論すべき時期ではないでしょうか。先送りのツケは我々に降りかかってくるのです。(松)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三

電話 (〇九四〇)六一一三二二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・松林拓

制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円